

令和2年度第1回通常理事会、令和2年度定時評議員会議決

令和元年度 事業報告書

自 令和元年 4月 1日

至 令和 2年 3月31日

公益財団法人 仏教伝道協会

公益財団法人仏教伝道協会 令和元年度事業報告書

公益財団法人仏教伝道協会は、日本文化の基本でもある慈悲と共生の仏教精神と仏教文化とその学術振興を促進し、現代的理解を弘め、グローバルな啓蒙活動を通して豊かな人間性を育て、より良い社会形成を推進し、もって人類の幸福と世界平和の実現に貢献することを目的とし、定款に定める事業にそって各種事業を推進して参りました。

については、定款に定める事業に沿って「令和元年度事業報告」を致します。

令和元年4月1日より令和2年3月31日に至る公益財団法人仏教伝道協会の事業ならびに重要事項は次の通りである。

1. 公益目的事業報告（公1）

1. 趣旨（目的）まとめた理由

仏教典籍の現代語訳、外国語訳を行いその刊行、普及事業や仏教関連の各種講座、研究会の開催による仏教精神の啓蒙活動、さらに仏教音楽祭などによる仏教文化の興隆と継承活動、また仏教精神、学術、文化の振興に積極的に関わってきた個人、団体への顕彰・助成等いろいろな支援事業を通して、世界中の一人でも多くの人に仏教を理解して頂き、豊かな人間性を育て、より良い社会の形成促進をもって人類の幸福と世界平和の実現という共通の目的達成の手段であり、下記の2-1) から2-3) までの事業はつながりのあることから一つにまとめている。

2. 事業

2-1) 仏教典籍の現代語訳及び外国語訳による編集とその普及事業

1. 仏教聖典の現代語訳、外国語訳刊行、頒布事業に関する事項

◇「仏教聖典」各国語訳とその出版について

全世界に仏教思想を伝えるべく、「仏教聖典」の翻訳改訂を進めている。現在、翻訳言語数は46言語。また聖典を現代に即した内容にするため、ルーマニア語・エスペラント語・オランダ語(再改訂)の改訂を終了した。またベトナム語・インドネシア語等の改訂、モンゴル語(モンゴル文字)の再改訂を進めるとともに、「仏教聖典」のより詳細な典拠の確認作業も進行中である。

◇「仏教聖典」オーディオ版製作準備

30年以上前に収録された「仏教聖典」のCDに代わるものとして「仏教聖典」の内容を完全に網羅したオーディオ版製作の元となる音源を収録した。

この音源を元に、令和2年に「仏教聖典」オーディオ版を販売する予定である。

◇「仏教聖典」のホテル普及について

「仏教聖典」を世界の主要ホテルの客室に寄贈する運動を推進し、国内のホテル32軒、海外のホテル4軒より新規申し込みを受けた。

新規・補充を合わせた日本からの令和元年度の寄贈冊数は、国内約12,300冊、海外約2,200冊であった。また今年度は新たにクロアチアのホテルからの寄贈申し込みがあり、海外協力機関からの寄贈も含めたホテル累計寄贈数は64カ国、約15,500軒・4,122,000冊に至った。

◇「仏教聖典」インド頒布

今期は、インドのジャンムー・カシミール直轄領ラダックとマハーラーシュトラ州ナーグプルに聖典を寄贈するプロジェクトを実行した。

ラダックは色濃くチベット文化を残す険しい山岳地帯であるが、現地にある仏教中央大学のワンドック学長の協力を得て学校・寺院等に「仏教聖典」11,500冊を頒布した。またインド新仏教の中心地ともいえるナーグプルでは、仏教系団体の代表者のチャンドラ・キッティ師の協力のもと、学校・仏教団体などに「仏教聖典」35,480冊と、インド頒布のために作成した「ブッダのおしえ」ヒンディ語版29,600冊を寄贈した。

いずれも感謝をもって受け入れられ、次の頒布を期待する多くのリクエストを受け取った。

◇『中国語(簡体字)仏教聖典』中国国内頒布

中国共産党の公認を得て宗教文化出版社との出版の契約が完了したため、令和2年度に中国仏教協会を通じて、中華人民共和国内の寺院を中心に『簡体字仏教聖典』20,000冊を頒布する準備を進めている。

◇「仏教聖典」の教育機関等への普及について

仏教的情操教育を喚起するための教育機関等への仏教聖典頒布活動は、令和元年度、大学・高校62校、保育施設145園を中心に、約34,000冊を寄贈した。平成24年度からの頒布開始以来、6年間の寄贈数累計は約418,000冊、寄贈先は全国の仏教系大学・高校の約70%、138校に達した。また、名入れ印刷をした『和英対照仏教聖典』等を入学・卒業記念品として約10,000冊販売した。

◇『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』頒布について

大学・高校等の教育現場で好評な『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』の普及活動を積極的に行い、大学・高校等56校、保育施設61園に、約31,000冊を寄贈した。またカラー版の『ブッダに学ぶさどりの言葉』と合わせ、全国寺院や書店などに3,500冊販売した。

◇『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』英訳について

BDKアメリカと協力して、令和元年5月に『さどりの知恵を読むー仏教聖典副読本』の英訳版『Learning the Wisdom of Enlightenment』を発刊した。仏教の基本を知るための入門書の英訳として歓迎され、BDKアメリカを中心に7,800冊を頒布した。

◇『ブツダのおしえ』普及について

『仏教聖典』の一部を抜粋、編集した小冊子『ブツダのおしえ』は、増え続ける外国人観光客に日本仏教を紹介するツールとして好評を博している。令和元年は全国の有名観光寺院やミュージアムを中心に、日本語版99,400冊、英語版24,800冊、中国語繁体字版6,600冊・中国語簡体字版6,300冊・韓国語版5,900冊を頒布し、また、ヒンディー語版を作成インドに寄贈した。2011年からの累計寄贈冊数は各言語を合わせ約110,000冊となった。

2. 英訳大蔵経の刊行、頒布事業に関する事項

欧米をはじめとする英語文化圏にも仏教の真髄を理解していただくため「集大成された仏典」である『大正新脩大蔵経』の英訳刊行事業を当協会と米国仏教伝道協会の共同事業として、第1期分139典籍の刊行を進めている。これにより令和元年度は仏教百科辞典ともいべき典籍である第57巻『法苑珠林(1)』と第58巻『法苑珠林(2)』を頒布した。また経典翻訳を速やかに完了させるための新たな方策として平成31年3月より東京大学印度哲学仏教学研究室に『瑜伽師地論』英訳の一部を委託し、完成を目指している。

3. その他仏教書籍の出版、頒布事業に関する事項

◇「一日一訓カレンダー」と解説書「みちしるべ」普及について

仏教の精神文化の裾野を広げるため全国の寺院、学校、保育園等へ「一日一訓カレンダー」とその解説書を制作、頒布している。

令和元年度は、「一日一訓カレンダー」八正道シリーズ8冊目の「正定」を刊行。壁掛け型・卓上型を製作し、合計約142,000部を頒布した。また、カレンダー解説書—みちしるべ『正しい心の統一—正定—』（執筆者 田上太秀師）を教化教材として刊行し、約49,000冊を全国の寺院に頒布した。

◇「一日一訓カレンダー」フォトコンテスト及び写真展について

写真を通してより多くの人びとに仏教に親しんでいただくため、「2021年一日一訓カレンダー」用の掲載写真を一般公募する「第6回フォトコンテスト—ほとけの心」を開催した。平成31年1月から令和元年8月末までの応募期間中に638件 2,115枚が集まり、令和元年9月5日に審査員会を開催。厳正な審査の上、入選作品32点を選定した。入選作品を掲載したカレンダーは2020年6月発行予定。

また「第5回フォトコンテスト入選作品の写真展」を東京の築地本願寺（令和元年4月27日-6月2日）、京都の平等院（令和元年6月29日-9月16日）、宮城の瑞巖寺（令和元年10月11日-11月27日）にて開催した。

平等院の写真展では、開催期間中の8月2日、カレンダーの文言の揮毫を依頼している書家 鈴木猛利氏による「書道パフォーマンス」を昨年度に続き披露した。

令和元年度は三会場合わせて期間中、約45万6000人の国内外の観光客が来場、入選写真と文言の書を鑑賞した。

◇「釈尊絵伝絵画展」開催について

カレンダーフォトコンテスト写真展に合わせて、令和元年9月12日から11月27日まで、宮城の瑞巖寺宝物館「青龍殿」にて、当協会が所蔵する「釈尊絵伝」の原画7枚（野生司香雪画）を、作成時の資料や写真とともに公開し、期間中、約12万人が来場した。

また、令和元年度は「釈尊絵伝」の複製画に加え、ジグソーパズル（B5サイズ70ピース・B4サイズ204ピース）を製作し、販売した。

◇紙芝居『ブッダ〜おしゃかさまの一生』寄贈

（株）手塚プロダクション監修のもと、手塚治虫の漫画『ブッダ』のキャラクターを使用し、釈尊の生涯を描いた紙芝居『ブッダ〜おしゃかさまの一生（前編・後編各15頁）』を製作。釈尊絵伝ジグソーパズルとともに、全国の仏教系幼稚園・保育園約2500施設に寄贈した。

また、令和元年10月1日、プレスリリースイベントとして、（公社）日本仏教保育協会、各宗派の保育連盟の代表者を招き、贈呈式と紙芝居の口演（公演）を当協会8階にて開催し、73名が来場した。

◇「こころの絵本大賞」開催について

鈴木出版（株）協賛、毎日新聞社・（公社）日本仏教保育協会・（公財）全国青少年教化協議会後援のもと、家族・友だち・勇気・いのち・おもいやり・愛情をテーマに、子どもたちにこころの大切さを伝えるための絵本作品を広く一般から募集する第4回「こころの絵本大賞」を開催。令和元年9月27日に審査員会を開催し、89点の応募作品の中から入選作品9点を決定した。

第4回大賞受賞作品『アリがダンスをおどったら』（作・絵/mayfan）は、令和2年3月に刊行、全国の仏教系保育施設に約4,800冊を頒布した。

また、第3回大賞受賞作品『ひよこがほしいもの』を寺院、保育施設を中心に約25,000冊を頒布した。

◇『とってもやさしい はじめての仏教』普及について

初心者向けに仏教の歴史や宗派、仏教用語などを簡潔に解説した冊子『とってもやさしい はじめての仏教』約111,000冊とその英訳版『GUIDE TO BUDDHISM IN JAPAN』約38,000冊を寺院やミュージアム、観光案内所などを中心に寄贈した。平成27年度からの累計寄贈冊数は約580,000冊となった。

◇『Guide to Buddhism in Japan』中国語版出版について

訪日観光客向けに日本の仏教寺院参拝作法、仏教に由来する日本文化を紹介する『はじめての仏教』の英訳版『GUIDE TO BUDDHISM IN JAPAN』の好評を受け、増加する中国語圏からの観光客にニーズに応えるため令和元年7月に中国語繁体字版『日本佛教指南』中国語簡体字版『日本佛教指南』を発刊した。令和元年度は『中国語繁体字版『日本佛教指南』5,500冊、中国語簡体字版『日本佛教指南』5,500冊を寄贈した。

◇『日めくりブツダせいかつ』出版について

令和元年6月に『元気になる！ 日めくりブツダせいかつ』を刊行した。ベストセラー『ブツダがせんせい』の執筆者である宮下真氏による、仏教の31の教えを子ども向けに説いた日めくり形式の書籍であり、それぞれの教えに対する解りやすい説明とイラストレーターてぶくろ星人氏によりユーモラスに描かれた挿絵が話題を呼び、発売から7か月で30,000冊を販売するヒット作品となった。

◇「仏教手帖2020」について

日常生活の中で仏教にふれる機会をつくるため、毎日手にする手帳に仏教に関する情報を入れた「仏教手帖2020」を制作し、一般書店も含めて販売した。すべてのページ仏教に関する豆知識を掲載し、巻末には写経や写仏のページをつくり付録にシールを付けて、使う人が自由に書き込みや加工ができるようにした。

2-2) 仏教精神と仏教文化とその学術振興の促進に対する助成と表彰事業

1. 留学生奨学金制度に関する事項

◇外国人留学生奨学金制度について

日本で仏教学研究を希望する外国の学者・研究者または学生に対して、外国人留学生奨学金交付制度を設けている。

令和元年度は世界の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付、またホームページでの一般公募に合わせて16名の応募があり、平成31年2月6日(水)に開催された仏教学者からなる外国人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、Lu Lu氏(盧鷺氏、中国国籍、創価大学・国際仏教学高等研究所)、Maxwell Joseph Brandstadt氏(マックスウェル・ジョセフ・ブランドスタット氏、アメリカ国籍、東京大学)、Anthony Robert Scott氏(アンソニー・ロバート・スコット氏、カナダ国籍、東京大学)の3名に支給した。

◇日本人留学生奨学金制度について

海外の大学や研究機関にて仏教精神とその文化を学ぶ、日本人の学者・研究者または学生に対して日本人留学生奨学金制度を平成25年度から設けている。

令和元年度は日本の有名大学や研究機関へ留学生奨学金応募要項を約150通送付、またホームページでも一般公募し、結果4名の応募があり、平成30年12月14日(金)に開催された仏教学者からなる日本人留学生奨学金審査委員会の公正な審査により、藤本庸裕氏(ドイツ・ハンブルク大学)、道元大成氏(オーストリア・オーストリア科学アカデミー)、矢崎長潤氏(ドイツ・フィリップ・マールブルク大学)の3名に支給した。

◇「奨学生交流会」開催について

来日中の外国人奨学生およびその指導教授、これから留学する、または既に留学を終え帰国した日本人奨学生を対象に、奨学金審査委員のご同席のもと計21名で、互いの研究内容を共有し、交流を深めていただく「奨学生交流会」を、令和元年7月10日(水)に開催した。まず事務局より、仏教伝道協会の活動概要と奨学金事業の意義等を説明した後、各奨学生よりこれまでの研究成果や今後の展望を発表した。

その後懇親会の場を設け、更に懇親を深めていただき、仏教伝道協会の活動への理解ならびに今後の奨学生の交流を促進する良い機会となった。

2. 顕彰事業に関する事項

国内外を問わず、仏教に関わる幅広い分野で貢献された方がたの功績を讃え、長年に亘って仏教伝道文化に貢献のあった個人または団体に「仏教伝道文化賞」を、また今後の仏教伝道を通じた文化活動の振興が、大いに期待できる個人または団体に「仏教伝道文化賞沼田奨励賞」を授与する仏教伝道文化賞の表彰事業を行っている。

令和元年度は、4月下旬より仏教各宗派本山、仏教会、教務支所、仏教系学校、海外各仏教宗派教団本部等に約800通の推薦依頼書を送付、ホームページでも周知を図り、仏教伝道文化賞に31通、沼田奨励賞に20通の推薦書を受領した。

この推薦書をもとに、令和元年7月18日、仏教伝道文化賞選定委員会を開催し、下記の2名に賞を授与する事を決定、同年10月17日、第53回仏教伝道文化賞贈呈式を挙行し、賞金と記念の盾を贈り表彰した。

各受賞者名、受賞理由は次の通り。

仏教伝道文化賞（賞金500万円）

受賞者：藤田徹文氏

受賞理由：信心の社会性を提唱。伝道書を多数執筆し、全国を布教する等、伝道一筋に努めた。

仏教伝道文化賞沼田奨励賞（賞金300万円）

受賞者：森村森鳳氏

受賞理由：親鸞思想を研究し、『教行信証』を中国語に翻訳・出版。講演等、広く発信。

3. 助成事業に関する事項

◇団体等への助成について

当財団の事業目的と同じ目的を持ち、その活動を積極的に展開している個人及び団体を選定し、当財団の目的とする事業実現のため国内外で助成支援を行っている。令和元年度は、平成31年1月25日に開催された助成金審査委員会の決定に基づき以下の法人・団体に対して、国内1,645万円、海外220万円、US\$610,000、£30,000、€193,500、CAD\$240,000（海外分日本円換算総額117,139,775円）の助成を実施した。

助成先法人・団体

〈国内・団体支援助成〉

日本印度学仏教学会、特定非営利活動法人鎌倉てらこや、日印文化交流ネットワーク、フリースタイルな僧侶たち

〈国内・事業支援助成/仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動〉

北海道東北臨床宗教師会、一般社団法人寺子屋ブッダ、

一般財団法人本願寺ビハーラ医療福祉会、十夜フェス実行委員会、
NPO日印交流を盛り上げる会、一般社団法人向源、公益財団法人全国教誨師連盟、
全日本仏教青年会、一般社団法人日本臨床宗教師会、
一般社団法人Project Gamon、仏教文化資源研究会、
公益財団法人全国青少年教化協議会

〈国内・事業支援助成/仏教学術振興活動〉

龍谷大学龍谷ミュージアム、公益財団法人中村元東方研究所、
日本仏教看護・ビハーラ学会

〈海外・事業支援助成/仏教学術振興活動〉

Klaus-Dieter Mathes（ウィーン大学）、Jorn Borup（アーフス大学）

〈国内・事業支援助成/仏教文化財保護活動〉

学校法人身延山大学、野生司香雪画伯顕彰会

〈国内・継続分〉

東京藝術大学大学院文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室

〈海外・沼田仏教講座運営維持、新規開設支援助成〉

シカゴ大学神学部、ライデン大学、国立政治大学、マクマスター大学

〈海外・継続分〉

米国仏教大学院、ロンドン大学、ウィーン大学（「沼田仏教講座基金」）
ハンブルク大学（「沼田仏教教授職設立基金」）、
ハンブルク大学（「沼田仏教学センター」）、プリンストン大学

2-3) 仏教精神とその文化興隆にかかわる啓蒙活動と支援事業

1. 啓蒙活動としての仏教関連講座、セミナー、研究会等の運営に関する事項

◇仏教聖典を初歩英語で学ぶ会について

一般の不特定多数の希望者を対象に、英語を通して仏教精神を学んでいただくことを目的とし、平成23年9月より月1回「仏教聖典を初歩英語で学ぶ会」を開催している。

令和元年度は、平成28年度から講座参加者の学習意欲向上と外国人観光客に英語で仏教を説明できる人材を育成することを目的として開設した「仏教英語ガイド」プログラムを継続。3級コースと2級コースそれぞれ月1回の講座を実施した。

3級コースには80名が通年の講座に参加し、その内45名が3級テスト（筆記・口頭）を受験、45名が合格した。また、2級コースには32名が参加し、その内の23名が2級テスト（筆記・口頭）を受験、23名全員が合格した。2級コースのテストを合格した希望者には、都内寺院に英語ガイドボランティア適性者として推薦状を発行。築地本願寺の英語ボランティア適任者として6名を推薦し、現在6名とも築地本願寺英語ボランティアとして活動している。

◇実践布教研究会について

日本仏教の祖師がたが歩まれた道を、現代に生きる僧侶たちが、「聞・思・修」一体となった仏道を自ら体験することによって、仏教の現代的理解の促進、ならびに各宗派僧侶間の交流を推進すべく、各宗派の本山を会場に毎年1回2泊3日にて実践布教研究会を開催している。

令和元年度は、5月29日から5月31日の間、伝道者としてのあるべき姿を研鑽すべく、「布教伝道～空海上人に学ぶ～」をテーマに掲げ、全国より宗派を超えて46名の僧侶が参集。高野山真言宗 総本山金剛峯寺（和歌山県）を会場に「第49回実践布教研究会」を開催した。

初日の開講式では総本山金剛峯寺第414世座主・高野山真言宗管長 葛西光義猊下にご臨席を賜りお言葉を頂戴した。二日目は、橋本真人師（総本山金剛峯寺執行・高野山真言宗教学部長）、松永潤慶師（高野山大学教授）、佐藤隆彦師（高野山大学教授）の講義や阿息観の指導を受け、最終日には奥之院を参拝した。

分科会では「現代人の心に届く布教伝道」をテーマに、参加者同士の活発な意見交換が行われ、宗派を超えて互いに親睦を深めるとともに研鑽を積んだ。

なお、昨年に続き、前日分科会（特別法座）を本会前日の5月28日、本願寺津村別院（大阪府）にて開催し、10名の参加者が出席した。

◇仏教聖典を生活に活かす会について

仏教精神を日常生活に活かすことを目的として、一般の方がたを対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を生活に活かす会」を主催運営している。令和元年度はご講師に小山一行氏（筑紫女学園大学元学長・名誉教授）、塩入亮乗氏（聖観音宗浅草寺 法善院住職）を招き、ホームページ等で告知し、8月と9月を除く計10回開催、のべ265名の参加があった。

◇仏教聖典を経営に活かす会について

仏教精神を学び、事業経営に活かし、また人生の道標の一助とすることを目的として、主に事業経営者や社会人を対象に、毎月1回専門家の講師を招き、「仏教聖典」を基本教材にした「仏教聖典を経営に活かす会」を主催運営している。令和元年度は講師に中野東禅氏（曹洞宗龍宝寺 前任職）、一楽真氏（大谷大学教授）を招き、案内状や当財団のホームページ等で告知し、8月と9月と3月を除く計9回開催、のべ219名の参加があった。

毎年開催の生活に活かす会と合同の「秋季研修会」は、9月9日に開催を予定していたが、台風15号の影響で中止となった。（申込人数37名）

◇BDKシンポジウムの開催について

令和元年度は下記の3回のシンポジウムを企画、実施した。
各シンポジウムの開催概要は下記の通り。

令和元年度第1回BDKシンポジウム（通算19回目）

仏教伝道文化賞受賞者による講演会

テーマ：自己を見つめて生きる -禅の道八十年-

開催日：令和元年7月22日（月）

時 間：18：30～20：30

講演者：西村恵信 氏（第52回仏教伝道文化賞受賞者）

禅の道で培われた経験と視点から、人生を悔いのないものにするヒントについて講演いただいた。参加者77名。なお、本シンポジウムは北海道・道民活動センターで開催し、参加費と書籍販売収入等は「平成30年北海道胆振東部地震」復興支援金として北海道仏教会連盟へ寄付した。

令和元年度第2回BDKシンポジウム（通算20回目）

テーマ：「日本仏教の未来」（The Future of Japanese Buddhism）

開催日：令和元年10月29日（火）

時 間：18：00～20：00

講演者：ジョージ・タナベ 氏（ハワイ大学名誉教授）

佐々木閑 氏（花園大学教授）

「仏教とは何か？」という原点回帰に基づき、アメリカの日系仏教寺院の事例を日本仏教の現状を比較しながら、日本仏教の再興に必要な視点についてジョージ・タナベ氏に講演いただいた。その後、佐々木閑氏と日本仏教の現状を变容させるには何が必要なのかを対談形式で考察いただいた。参加者86名。

令和元年度第3回BDKシンポジウム（通算21回目）

テーマ：「仏教と医療 ～現在と未来を語る～」

開催日：令和元年11月28日（木）

時 間：18：00～20：00

講演者：川野泰周氏（精神科・心療内科医、臨済宗建長寺派林香寺住職）

井川裕覚氏（高野山真言宗歓楽寺住職、関東臨床宗教師会代表）

増え続ける心の病や加速する高齢化社会など、現代社会が抱える問題の数々に仏教はどのように向き合えばよいのかについて川野泰周氏には「カラダに効く仏教」、井川裕覚氏には「生死の現場と向き合う」という視点から講演いただいた。その後、事前に募った参加者からの質問を両講師に対談形式でお答えいただいた。参加者98名。

令和元年度第4回BDKシンポジウム（通算22回目）

仏教聖典を経営に活かす会の特別編として熊本にて開催

テーマ：「世界遺産マネジメント～修理と活用と理念～」

令和2年3月12日（木）に熊本にて開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期した。

◇BDK仏教ヨガ講座について

一般の方がたを対象に、身体と心の健康を養い、心や頭の整理をする場を持っていただくことを目的に、平成27年4月より月1回（毎月第1水曜日、午後7時から午後8時30分まで）「BDK仏教ヨガ講座」を開催している。講師は、浄土宗の僧侶で、ヨガインストラクターでもあるガッソ有香氏に依頼し、仏教の法話とヨガの実践を交えた講座を開催。令和元年度は、年間を通して273名の参加があった。

◇連続仏教講座「世界の仏教を学ぶ」について

新規講座として、連続仏教講座「世界の仏教を学ぶ Part 1」を開催。インドから発祥した仏教伝播を辿るため、令和元年度は、Part 1（全9回）と題して北伝（インド・スリランカ・チベット・ネパール・ブータン・モンゴル・中国・韓国・台湾）に焦点を当て、伝道の流れの中で各国の仏教を学んだ。本講座には定員70名を超える申込みがあった。各開催概要は以下の通り。

開催日程	テーマ	講師名
7月25日（木）	インド	志賀浄邦 氏（京都産業大学教授）
8月29日（木）	スリランカ	藤本 晃 氏（誓教寺住職）
9月26日（木）	チベット	吉村 均 氏（中村元東方研究所専任研究員）
10月24日（木）	ネパール	スダン・シャキヤ氏（種智院大学教授）
11月29日（金）	ブータン	熊谷誠慈 氏（京都大学こころの未来研究センター准教授）
12月20日（金）	モンゴル	松川 節 氏（大谷大学教授）
1月22日（水）	中国	柳 幹康 氏（花園大学准教授）
2月27日（木）	韓国	佐藤 厚 氏（東洋大学東洋学研究所客員研究員）
	台湾	叢輪顕量 氏（東京大学 教授）

◇仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」について

一般の方がたを対象に、日本仏教の各宗派の持つ基本的な教義や宗祖を理解していただくため、4月から11月まで（8月を除く）、月1回（午後6時30分から午後8時30分まで）、各宗派を代表する若手の僧侶を講師として招き、基本講義60分、法話60分の構成で池袋駅近くの貸し会議室を会場に開催し、毎回約90名が参加、年間講座参加者数は612名であった。

各開催概要は以下の通り。

開催日程	取り扱った宗派・宗祖	講師名
4月10日（水）	天台宗・最澄	木内堯大 氏
5月15日（水）	真言宗・空海	松島龍戒 氏
6月12日（水）	浄土宗・法然	吉田龍雄 氏
7月10日（水）	浄土真宗・親鸞	前田壽雄 氏
9月11日（水） →12月4日（水）	日蓮宗・日蓮	早島英観 氏
10月9日（水）	臨済宗・白隠	細川晋輔 氏
11月13日（水）	曹洞宗・道元	千葉公慈 氏

※9月11日に開催予定であった日蓮宗の回は台風接近による被害発生により12月4日に開催が変更となった。

また、仏教についてもう少し深く勉強がしたいという定例講座参加者の要望に応え、令和2年2月2日（日）に京都文教大学学長の平岡聡氏を講師に迎え仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」2019特別編「南無阿弥陀仏と南妙法蓮華経の比較」「無量寿経と法華経/法然と日蓮」を開催。講義第一部では経典に焦点を置いた無量寿経と法華経の比較を取り扱い、第二部では第一部の教えが日本に伝わった後の法然と日蓮の二人を比較し、それぞれの違いと共通点等について紹介し、66名が参加した。

◇「特別坐禅会」について

一般の方がたを対象に、坐禅とヨガのワークショップを体験しながら仏教を学ぶ「特別坐禅会」を令和元年6月1日（土）曹洞宗大本山總持寺において開催した。100名以上が参加し、ヨガと法話と坐禅を体験した。今回は初の試みとして、ヨガの時間に音楽ユニット「Pranada」によるインドの古典縦笛パーンスリーとシンセサイザーの演奏が加わった。希望者に精進料理の昼食を用意し、食後には諸堂拝観も行った。

◇「仏教を英語で学ぶ会 in 京都 “英語で学ぶ日本仏教の基本”」について

当協会の活動の全国展開を促進する一つとして、当協会で開催している「仏教を初歩英語で学ぶ会」を、外国人観光客が多く、寺社仏閣を英語で説明する機会が多い京都で開催。「英語で学ぶ日本仏教の基本」（Learning Basics of the Japanese Buddhism in English）と題し、Lisa Grumbach 氏（龍谷大学非常勤講師）を講師に4回（9月～12月の期間/月1回）の連続講座を実施。関西地域の観光協会及び通訳ボランティア団体等に募集をし、定員50名を越える56名の方が参加した。

◇「お寺でヨガと坐禅をやってみよう！」について

夏休み特別企画として、小学生を対象に、坐禅とヨガを体験しながら仏教を学ぶ「お寺でヨガと坐禅をやってみよう！」を令和元年7月29日（月）に臨済宗妙心寺派龍雲寺において開催し30名が参加した。龍雲寺住職の細川晋輔師による法話と坐禅体験、ならびにヨガ講師 櫻井麻美氏の指導のもと、ヨガを体験した。

◇「親子で学ぶ精進料理教室」について

一般の親子（子どもと保護者）を対象に精進料理のお弁当を作る「親子で学ぶ精進料理教室」を令和元年8月4日（日）に浅草（Cooking Studio おいしいのつくりかた）にて開催。下は3歳から上は12歳の子ども達と保護者、計16名が参加し、精進料理研究家 麻生怜菜氏による精進料理についてのお話を聞き、7種のおかずやおにぎりの調理実習を体験。各自わっぱの弁当箱に料理を詰めて完成。美味しい精進弁当を通じて「食の大切さ」を考える、夏休みの貴重な体験となった。

◇「英語で学ぶ精進料理教室」について

一般の方がた（主に在日外国人、日本人の参加も歓迎）を対象に「英語で学ぶ精進料理教室-Japanese Buddhist Vegetarian Cooking Class」を浄土真宗東本願寺派緑泉寺住職 青江覚峰師を招き、令和元年11月20日（水）に浅草（Cooking Studio おいしいのつくりかた）にて開催。司会進行・調理実習等、全て英語で行い、様々な国籍や背景をもつ計15名（外国籍：8名、日本国籍：7名）が参加、4品のおかずを調理し食した。精進料理の「無駄のない、食材を大切に作る」考え方を学び、食材ひとつひとつに感謝の気持ちを持った上で作った料理を有り難く味わうことを体感していただいた。

◇「食を通じて仏教を学ぶ」映画「典座」×精進フレンチについて

一般の方がたを対象に、全国曹洞宗青年会製作による映画「典座」の上映とフレンチシェフである僧侶が提供するスペシャルランチを組み合わせた、様々な仏教の側面に触れる事が出来る特別講座「食を通じて仏教を学ぶ」を令和2年2月15日（土）に東京グランドホテルにて開催。68名にご参加いただき、約3時間にわたるプログラムを体験。第一部では、曹洞宗耕雲院副住職 河口智賢師を招き、いす坐禅で心身を整えた上で、映画「典座」に対する思い等を伺いつつ、映画を鑑賞。「食を通じて信仰を考える」機会を与えていただいた。第二部では、曹洞宗常泉寺副住職 折橋大貴師を招き、食の欧米化に慣れた現代人にも食べやすい洋風のスペシャル精進ランチ（デザートを含む全5品）を提供。「食べる」と言う生きる上で欠かせない行為から自身の在り方を見つめ直す貴重な体験となった。

◇「輝け！お寺の掲示板大賞2019」について

寺院に設置されている掲示板の標語を撮影して、インターネットのSNS（TwitterやInstagram）に投稿してもらい、反響等を参考にしながら大賞を決定する「輝け！お寺の掲示板大賞2019」を開催した。昨年同様、「中外日報」や「仏教タイムス」など仏教系メディアの協賛の下、令和元年7月1日から募集を開始。投稿された作品がテレビ・ラジオ・週刊誌など数多くのメディアに取り上げられ、4か月の応募期間の間に昨年の第一回の総投稿数を200作品以上上回る総計925作品が

集まった。今回の大賞は浄土真宗本願寺派永明寺の掲示板（標語内容「衆生は不安よな 阿弥陀動きます」）が選ばれた。

◇「仏教聖典」のありがたいことばキャンペーンについて

平成31年3月より仏教聖典46か国語版のPDFデータを仏教伝道協会のホームページに掲載したことに伴い、PDF版も含めて仏教聖典の教えに数多くの方々に広く触れていただきたいという思いから、「『仏教聖典』のありがたいことばキャンペーン」を開催した。これは仏教聖典の中の好きな教えやフレーズをTwitterにつぶやいてもらうシンプルな企画であり、一般の方、僧侶の方、仏教学の先生まで数多くの人々がこのキャンペーンに参加し、7月1日から10月31日までの4か月間で200以上のツイートがあった。

◇ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」について

若年層へのアプローチと仏教伝道協会の知名度の拡大をはかるため、関西圏をカバーするFM大阪にて、ラジオ番組「笑い飯哲夫のサタデーナイト仏教」の放送（毎週土曜日24:55から25:00までの5分間番組）を平成30年6月より開始し、令和元年度も継続した。ポッドキャストを通じて関西圏以外からも聴けるため、海外を含めて全国からメッセージが寄せられ、好評を得ている。

◇ホームページ掲載コラム 「禅僧のことば」「はじめての精進料理」について

ホームページへのアクセス数促進のため、令和元年度にオリジナルコラムの連載（それぞれ全6回）を掲載した。細川晋輔師（臨済宗龍雲寺住職）による「禅僧のことば」（偶数月更新）ではさまざまな禅のことばについてのコラムを、精進料理家の藤井まり氏による「はじめての精進料理」（奇数月更新）では季節に合わせた進料理のレシピを掲載した。

2. 仏教音楽の現代化とその普及事業について

伝統的宗教音楽を継承すると同時に、仏教音楽の現代化を進め、広く仏教精神とその文化に親しんでいただくことによって、仏教的基盤を確立することを目的に、昭和52年以来、仏教音楽にちなんだコンサートや新しい仏教音楽の作品募集などを不定期で行っている。

令和元年度は、11月14日、狂言師 野村萬斎氏、能楽師 観世喜正氏を招き、渋谷セルリアンタワー能楽堂にて「第19回仏教音楽祭Buddhaspel（ブッダスペル）Rediscover of Japanese Tradition～能・狂言と仏教の夕べ」を開催した。

音楽普及委員会 逸見道郎委員長と野村萬斎氏の対談で、仏教と能楽の深い関係性が示され、また能・狂言のルーツと言われる「法華八講（論議）」を聖観音宗総本山浅草寺の田中昭徳貫首と浅草寺僧侶方により実演いただいた。

当日、200名以上が来場し、満堂となった。

3. 三田落語会の事業について

仏教説話や寺社を舞台とする古典落語を交えて、近隣住民をはじめ一般の方がたに楽しんでいただくと同時に仏教精神の涵養と仏教文化継承を目的とし、(株)文化放送、(株)エムアイティギャザリングの主催する「三田落語会」に、協賛団体として4公演分（のべ1072名参加）の協賛広告費100万円を支出した。

4. 貸し会議室事業に関する事項

◇公益目的事業としての施設の貸与事業について

仏教伝道センタービルの施設を有効活用し、公益目的事業として施設の貸与事業を行っている。当財団が公益財団移行後に公益目的として掲げる“豊かな人間性を育て、より良い社会の形成を促進し、もって人類の幸福と世界平和の実現”に貢献する事を目的とした会議等を開催する公益法人、社会福祉団体、NPO法人、市民団体等を優先し、通常（一般）は3ヶ月前からの予約受付に対し、6ヶ月前から予約を受け付け、通常（一般）価格の半額で貸出し、多くの公益目的事業を側面から支援することによって、社会貢献を果たしている。

令和元年度の会議室の公益目的利用実績（公益財団、公益社団等の使用）は204件であった。

II. 収益事業報告（収1）

◇収益事業としての施設の貸与事業に関する事項

仏教伝道センタービルの施設における公益事業目的で当面使用予定のない空きスペースならびに空き時間は一般に向けて貸与する事業を行っている。

令和元年度の会議室の一般目的利用実績（一般株式会社等の利用）は222件であった。

Ⅲ. 事務報告

1. 役員等に関する事項

理事・監事

(令和2年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
会長 (代表理事)	木村清孝	非常勤	令和元年6月26日 (再任) 令和元年6月26日 代表理事就任	東京大学名誉教授
理事長 (代表理事)	桂 紹隆	非常勤	令和元年6月26日 (再任) 令和元年6月26日 代表理事再任	広島大学名誉教授 龍谷大学名誉教授
常務理事 (代表理事)	青木晴美	常勤	令和元年6月26日 (再任) 令和元年6月26日 代表理事、常務理事 再任	元株式会社ミットヨ 取締役常務
理事	門脇邦彦	非常勤	令和元年6月26日 (再任)	日本空港ビルデング株式会社 名誉会長
理事	野村邦武	非常勤	令和元年6月26日 (再任)	元富士銀行代表取締役常務
理事	生田忠士	非常勤	令和元年6月26日 (再任)	元株式会社ミットヨ取締役
理事	沼田恵明	非常勤	令和元年6月26日 (再任)	株式会社ミットヨ 代表取締役社長
理事	塩入亮乗	非常勤	令和元年6月26日 (新任)	浅草寺本堂部
監事	中野東禅	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	竜宝寺前住職
監事	松村智司	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	元第一勧業銀行取締役

※理事 上山大峻氏は令和元年6月26日をもって退任した。

評議員

(令和2年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
評議員	山田一眞	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	金剛院院主
評議員	市川智康	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	池上本門寺学頭
評議員	塩入亮乗	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	浅草寺本堂部
評議員	平田史郎	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	国府台女子学院学院長
評議員	阿 純孝	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	圓融寺名誉住職
評議員	西本照眞	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	武蔵野大学学長
評議員	中川 徹	非常勤	平成29年6月23日 (再任)	株式会社ミットヨ会長
評議員	中谷忠雄	非常勤	平成29年6月23日 (新任)	元株式会社ミットヨ 代表取締役専務
評議員	逸見道郎	非常勤	令和元年6月26日 (補欠)	浄土寺住職
評議員	石井清純	非常勤	令和元年6月26日 (補欠)	駒澤大学教授 駒澤大学第31代学長
評議員	吉水千鶴子	非常勤	令和元年6月26日 (増員)	筑波大学教授
評議員	渡邊清春	非常勤	令和元年6月26日 (補欠)	株式会社ミットヨ経理部長

※ 評議員 塩入亮乗氏は令和元年6月26日をもって辞任した。同日理事に就任した。

※ 評議員 中川敬史氏は令和元年6月26日をもって辞任した。

顧問

(令和2年3月31日現在)

役名	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	略歴
顧問	菅原伸郎	非常勤	平成25年4月1日	元朝日新聞こころ 編集長
顧問	松田正典	非常勤	平成25年4月1日	広島大学名誉教授
顧問	北畠典生	非常勤	平成25年4月1日	浄土真宗本願寺派勧学
顧問	高島孝範	非常勤	平成25年4月1日	仏教伝道協会元常務理事

※ 顧問 金光寿郎氏は令和2年1月19日に逝去した。

2. 理事会・監事会・評議員会に関する事項

(a) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和元年6月6日(木) (令和元年度第1回通常)	平成30年度事業報告および収支決算報告の件 評議員会に提出する理事候補者承認の件 評議員の欠員に伴う補欠評議員ならびに 増員評議員推薦の件	可 決 可 決 可 決
令和元年6月26日(水) (令和元年度第1回臨時)	代表理事の選定ならびに会長、理事長、 常務理事選定の件	可 決
令和元年11月28日(水) (令和元年度第2回通常)	代表理事の職務の執行の状況の報告	
令和2年3月26日(木) (令和元年度第3回通常)	令和2年度事業計画および収支予算書承認の件 カリフォルニア大学バークレー校の 沼田仏教講座運営体制強化の件 重要な使用人の選任に関する件	可 決 可 決 可 決

(b) 監事会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和元年5月28日(火)	平成30年度財産状況および業務執行状況	正確であることを確認

(c) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和元年6月26日(水) (令和元年度定時)	平成30年度事業報告および収支決算報告の件 任期満了に伴う理事改選の件 補欠評議員ならびに増員評議員選任の件	可 決 可 決 可 決

以 上

令和元年度事業報告 附属明細書

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和2年6月
公益財団法人仏教伝道協会
代表理事（理事長） 桂 紹隆